

# 低炭素都市 2050 なごや戦略

～ 低炭素で快適な都市なごやへの挑戦～



名古屋市

# ようこそ！

## 背景

- ・気候変動による自然災害の被害や農林漁業への影響の深刻化の懸念
- ・石油などの化石燃料枯渇の懸念

## 現状と認識

- ・世界(主要国首脳会議)で、2050年までに世界の温室効果ガス排出量を半減させることが共有されました。
- ・世界平均(4t)の半減は2t。日本では8割削減に相当します(日本の1人あたりCO<sub>2</sub>排出量は10t)。
- ・来るべき超高齢化、人口減少に対応した都市を構築していく必要があります。

私たち  
名古屋  
市

総合目標  
歩

市民

挑戦目標 温室効果ガス 中

市民

## 駅そば生活

歩いて暮らせる  
駅そば生活

P19

・住宅・店舗・職場などが駅そばに集積し、徒歩や自転車、公共交通で暮らすまち

・都市機能の誘導等にあわせ、自然環境の保全(緑化など)とエネルギーの共同利用が進んだまち



# 2050年の名古屋へ

名古屋が将来も快適で安全な暮らしをしていくために  
名古屋の自然や風土を生かしたまちづくりを進め  
温室効果ガスの大幅削減に挑戦します！

## 標 低炭素で快適な都市 なごや (P11)

歩いて暮らせる化石燃料消費の少ないまち

自然豊かで、冷暖房のいらぬまち

民と事業者、行政の協働が創る低炭素なまち

中期(2020年) 25%削減

長期(2050年) 8割削減 (P15)

協働パワー (P54) が支える3つの生活像

## 風水緑陰生活

身近な自然を  
享受できる生活

P25

・地形・水系等、自然を生かすまち  
づくりで、雨水の浸透を高め、水害  
等にも強いまち

・空地は河川・運河・緑地に集約し、  
緑・水の回廊が形成され、風が通り  
生命息づくまち

## 低炭素「住」生活

自然と超省エネ機器を活用  
した快適低エネルギー生活

P33

・公共交通の利便性向上、次世代  
型交通システムが普及したまち

・自然の光や風を最大限に利用し、  
エネルギーの無駄がない暮らし

・自然エネルギー等の飛躍的導入により、  
化石燃料消費の少ない暮らし

Produced by Tatsuya Hiraga

縄文時代(紀元前4000年)

2050 film of NAGOYA



風光り、  
自然と人の命が巡る物語が この地に誕生した

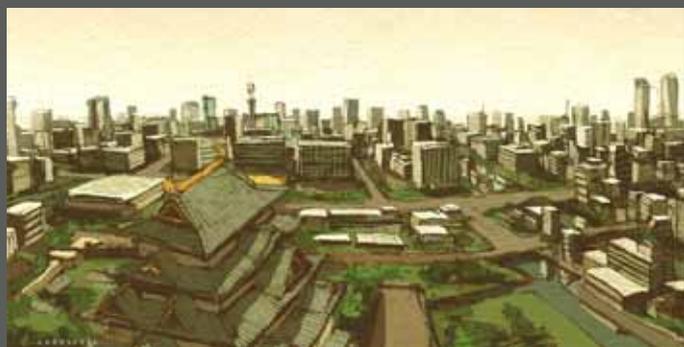


Compose & arranged by Akio Morimoto

江戸時代(名古屋城築城 1610年)



そして今(2009年)...



風は南北に流れ  
春は桜の堀川 秋は紅葉の七寺  
ぜいたくはなくても 人々は四季折々を楽しんだ

(もう一度 風を導け...)



Story & voice by Rika Ogihara

2050年



7

7A

8

8A

9

9A

時を重ね 繰り返されるのは 自然と人の命の営み  
耳を澄まし 聞こえるのは いつしか風と交わした物語

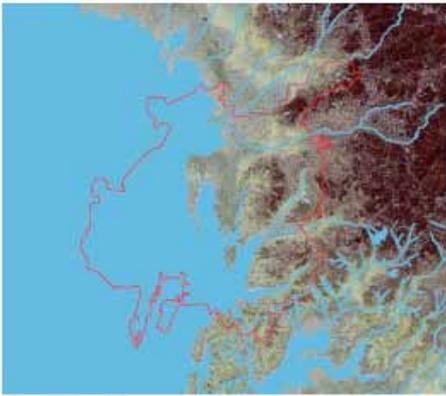
手がかりはここにある さあ風を導き  
いざ 生命都市なごやへ

風が運ぶ未来は どこかなつかしい  
でも誰もまだ見ぬ 生命よぶ都市

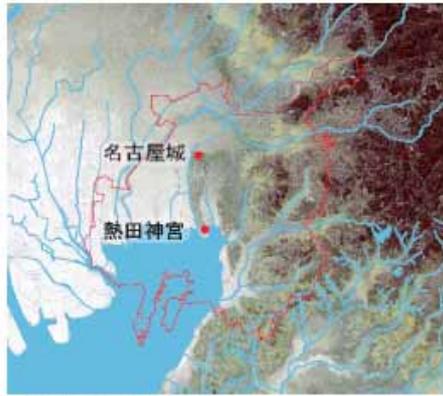
風は何千年も変わらず 巡っているのだから



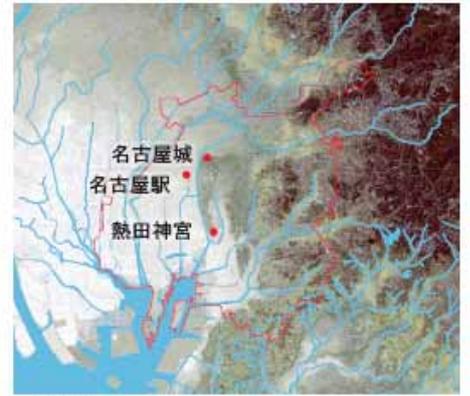
## 名古屋の地形の移り変わり



紀元前4000年



名古屋城築城1610年



現在2009年

## 近代化による都市構造の変化(縦軸から横軸への移り変わり)



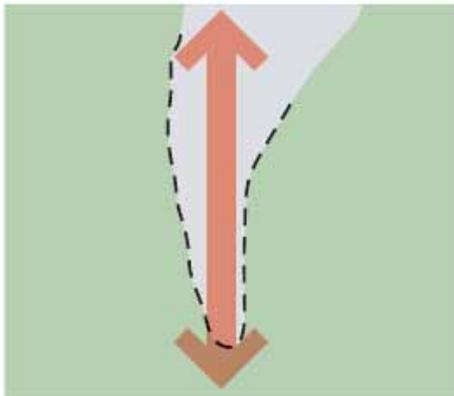
1877年



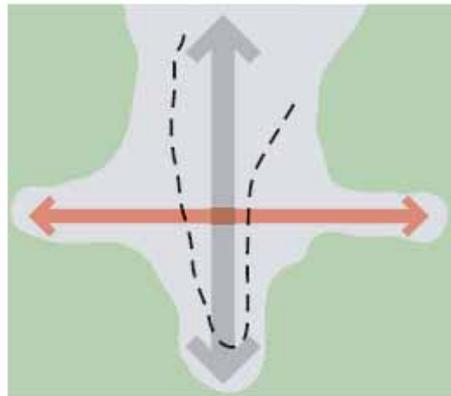
1908年



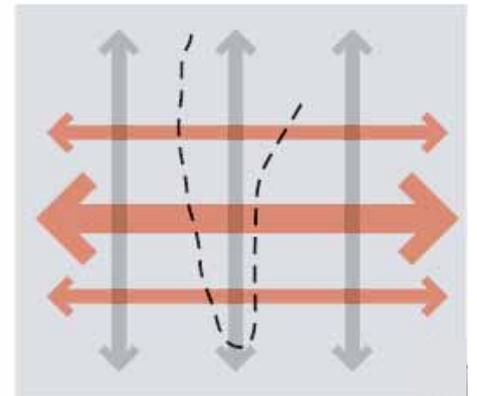
現在2009年



かつて名古屋は熱田台地上に形成されており、タテ軸の都市構造であった。



鉄道駅の開設が名古屋の東西(ヨコ)軸強化の契機となった。



現在は「名駅エリア」と「栄エリア」に二極化し、タテ軸が希薄になっている。

## ごあいさつ

三種の神器の1つ草薙神剣をまつり、古来より人々の崇敬を集める緑の神苑「熱田の社」。時を経て、関が原の戦いで天下を統一した徳川家康が、海陸の連絡に便利な那古野台地に名古屋城の築城を始め(慶長15(1610)年)、従来の城下町だった清洲から土民が移り住み(清洲越し)、誕生した市街地。名古屋は大都市の中で一番長い歴史と独自の文化を育みながら、発展してまいりました。

一方で、名古屋を取り巻く全世界では、いま、地球温暖化問題や生物多様性が蝕まれつつあるといった地球環境問題が深刻化しつつあるといえます。

私は、こうした問題に対して、世界の動きと連携して大都市の責務を果たしていくとともに、名古屋の歴史と文化といったアイデンティティを基盤として日本の風土を生かした独自の地球環境対策に取り組んでまいります。

名古屋のきれいな自然や歴史的名所を大事に後世に残し、人々の叡智を結集することで、生命が息づく都市環境の創出と低炭素社会の実現を進めていきます。2050年も自然豊かで快適な都市・名古屋を、みなさんと一緒に創ってまいりたいと思います。

名古屋市長  
河村 たかし



# 目 次

戦略の意義	P. 1
1 背景	P. 1
2 戦略の必要性	P. 4
3 戦略の位置付け	P. 8
将来像とその実現に向けた取組み方針	P. 9
1 低炭素都市の4つの視点	P. 9
2 将来像	
(1) 総合目標	P. 11
(2) 3つの生活と市民協働パワー	P. 11
(3) 削減の目標	P. 15
3 実現に向けた取組み方針	P. 18
個別方針	P. 19
1 駅そば生活 ～歩いて暮らせる駅そば生活～	P. 19
2 風水緑陰生活 ～身近な自然を享受できる生活～	P. 25
3 低炭素「住」生活～自然と超省エネ機器を活用した快適な低エネルギー生活～	
(1)くるま	P. 33
(2)すまい・しごと	P. 39
(3)地域エネルギー	P. 46
4 低炭素社会を支える市民協働パワー	P. 54
戦略の活用	P. 60
1 戦略の推進方策	P. 60
2 点検・評価	P. 61
策定検討会記録	P. 62
子ども、若い世代、市民の方からのメッセージ	P. 64